



同窓会 千南原

第30号
平成28年(2016年)10月1日発行

【編集・発行】
〒426-8577
藤枝市天王町1丁目7-1
静岡県立藤枝東高等学校同窓会

【同窓会】
電話/054-645-3527
FAX/054-645-3529
＜同窓生数＞25,516名
＜在学生数＞902名
＜職員数＞73名

【印刷】
〒426-0041
藤枝市高柳1丁目18-23
株式会社共立アイコム
電話/054-635-4651(代)

学びの旅に終わりは無い



民俗学者 近畿大学名誉教授 野本 寛一 先生(第28回生)

文化の向上発達に特に功績顕著な者として、平成27年度、文化功労者に民俗学者の野本寛一近畿大学名誉教授が顕彰された。野本先生は1955(昭和30年)に本校を卒業、文化功労者として、1980(昭和55)年から1987(昭和62)年までの8年間在任された。県教委を経て近畿大学へ。フィールドワークを重視され、環境民俗学の領域を切り拓かれた業績と、本校の思い出、グローバル化の思いを語っていただいた。

1次資料の集積と分析が評価

「文化功労者顕彰を受けることができたのは全国各地の2千名を超える伝承者の方々の御協力のおかげ。大変光栄なことです。」と奈良市郊外の御自宅で温かく出迎えてくださった野本先生は人と自然環境の多様な関わりを注目した環境民俗学のパイオニアである。顕彰は昨年11月3日にホテルオークラで行われ、その後、天皇陛下からお言葉を賜った。

1987(昭和62)年に学位論文の『生態民俗学序説』を執筆された当時は未開拓の分野で文献もなく、フィールドワークによる膨大な一次資料の収集とその論考で新たな学問の領域を切り拓いてきた。高校教員時代からの全国2千人以上からのフィールドワークによる聞き取り調査はインターネットではできないことで、その収集、論考の量と、継続して追いかけている事を評価していただいたと語られるが、7月にはこれまで中行事の体系のなかに入りにくかった、人々の暮らしにかかわる季節のいとなみに光をあてた新著『季節の民俗誌』(玉川大学出版部)を上梓された。『環境民俗学』を出さなければならぬが、「まだその段階にないので各論を書いていく」と教えて80歳になられるが、学びの旅に終わりは無い。「これからも書き続けるといふことは、先人たちの伝承がこの国の

歩み続ける体力は学生時代に培われた

1歳の時に父親が日中戦争で戦死、旧相良町牧之原市松本にあった父親の実家の農家で育った。明治6年生まれの曾祖母が年中行事を守り続ける民俗が豊かな環境であった。

中学生の頃に旧岡部町(藤枝市)朝比奈の玉取西楽寺に母親と転居、高校までの片道15kmを自転車を通った。フィールドワークで歩み続ける体力はこの頃培われたと語る。当時、授業以外にも交流を持たれた先生が多く、さまざまなアドバイスを受けた。多くの友人と自由な校風の中で交わり、よき師と友に恵まれ、「いい勉強ができた時代だった」と振り返る。部活動は美術部で、当時の「藤枝東高新聞」には先生が描かれた挿絵が掲載されている。美術の授業では藤枝西高に通い、岐部兆治先生(第1回生)に教えを受けた。美術の道に進むことも考えたが、当時、國學院OBの先生が4人居たこともあり、「國學院に行けば、民俗学もできるし、国語の教員にもなれる」と思い、柳田國男の高弟として民俗学の基礎を築いた折口信夫の流れを汲む同大に進学した。



小川国夫氏、田島光平氏、野本寛一氏の3人で東高旧図書館にて(昭和56年頃)

調査で歩み続ける体力は学生時代に培われた、牧之原や朝比奈での生活は、感受性を磨くのに最適であったと、自然のこころ奈良市郊外の御自宅で語られた。

民俗学と教員の共通点は誠実さと謙虚さ

大学を卒業後、静岡市立高校で2年、焼津中央高校で13年を経た後、1980(昭和55)年に本校に赴任、県教委に転出する1987(昭和62)年まで8年間教鞭を執った。この間、必修クラブで「民俗研究部」も主宰、葉梨の塾生への巡検等も行った。教科指導においては、一番適切な方法で教材を提供したいと、「教師板前論」が持論分析、教材化する技術がなければダメで、授業をするには自己鍛錬をして人間性を高める必要がある。民俗学も、フィールドワークには相手の立場を考えなければいけない誠実さと謙虚さが教員と共通すると語られる。当時は毎週、土曜日の授業が終わるとという生活をされていたが、民俗学の著書『石の民俗』を執筆した1975(昭和50)年より前に『論説文の読解』(昭和41年)、『学習高校現代作文』(昭和48年)を執筆されている。高校の教員も民俗学も片手間にできるものではなかったが、よき同僚、上司に恵まれたと当時を振り返る。

「島田市ふるさと大使」に同窓生2名委嘱される



川合 正矩 氏 (第35回生)

島田市の市制施行10周年を記念して創設された「島田市ふるさと大使」の第1号として、日本通運株式会社代表取締役会長で本校同窓会関東支部長も務められる川合正矩氏(35回)が委嘱され、故郷・島田市のPR活動をされていくこととなりました。さらに第2号として俳優の別所哲也氏(57回)も委嘱されました。

グローバル化は人間力が問われる時代に

10月20日に本校で行われる文化講演会では、講師として来校される。学問の独創性とは、人に教わるものではなく自ら探ることで成り立つ。環境民俗学の第一人者であることについても、人と自然環境の多様な関わりを明らかにしたいと思ったら、先行の文献資料がなく、ならば自分で調べようということになったということ、と語られる。

2号を求めて13年

会報委員長 三輪昌光(第31回生) 会報担当を、平成16年7月に引き受けて13年経ちました。最初の18号は学校創立80周年特集号として、平成16年10月の発行です。前回の17号から6年を経過して、おかげさまで今年度の発行が30号となりました。その間、同窓生の皆様は母校での思い出や、現在のお立場での思いを綴られた随想の執筆を大勢の方々に、ご協力をいただき発行することができ、感謝申し上げます。

同窓生の皆さんが各方面で活躍されている証を、紙面に表すことが出来たものと思っています。また、恩師の先生方にはインタビューに快くお応えいただき「恩師を訪ねる」コーナーは、先生方を懐かしく思い出企画となりました。機関紙の発行など経験のない上に、筆不精のうえ知識もない私でしたが、会報担当のメンバーに恵まれたおかげで、曲がりなりにも務めることができました。感謝申し上げます。当初手掛けたのが、先輩の方々が発行された会報の収集です。どうしても見つからなかったのが2号です。40年以上前に発行されていると予測でき、現在60歳以上の同窓生に届けられたものと思っています。これまでもご協力をお願い申し上げます。ありがとうございます。

総務委員会

同窓会報「千南原」発行を継続しながら、今年度は広報委員会に名称変更して、「会報部」と広く情報を発信するための「ホーム・ページ部」に分けて活動する。

総務委員会 総会の運営・名簿管理等と、東海大会や全国大会等で顕著な成績を上げたクラブ活動助成を行いながら、活動の基盤になる同窓会維持会費の向上に向けて一層活動を行う。

28年度総会と今後の活動について

本年度の東高同窓会総会は平成28年7月2日(土)に藤枝市の小杉苑において多数の役員の方々の皆様のご出席をいただき開催されました。

藤枝市立総合病院前副院長の池谷健氏(40回)から「病院の医者が思っていること」と題した特別講演をいただき、引き続き27年度事業並びに決算報告、監査報告28年度事業計画並びに会計予算について審議され原案の通り可決されました。尚、決算報告につきましては本紙記載の通りです。また、本年度は役員改選の年であり長年同窓会のため副会長としてご尽力いただきました西川英雄氏、竹下芳太郎氏、横山恵一郎氏が退任され、新たに館正義氏、戸村邦夫氏、各務博俊氏が就任されました。

同窓会は委員会活動を基本にして運営されていますが、今後の委員会活動について簡単にご報告いたします。

組織・規約委員会 同窓会組織強化のために各回別委員と積極的に話し合いを行い、各高校の同窓会規約等を参考に組織強化のために現行規約の見直しを行う。

野本寛一(の)のこぼれ話

1937(昭和12)年生まれ。民俗学者、近畿大学名誉教授。59年國學院大学文学部卒業。本校などで教鞭を執りながら民俗学研究を続け、88年『生態民俗学序説』で筑波大学文学博士。94年近畿大学文学部教授。2004年柳田國男記念伊那民俗学研究所所長。2015(平成27)年文化功労者顕彰。『天井川 その風土文化』『焼畑民俗文化論』『自然災害と民俗』など著書多数で、現在、著作集の刊行が進んでいる。

平成27年度 藤枝東高等学校同窓会会計決算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

収入総額 22,859,376円
支出総額 22,859,376円
差引金額 0円

収入の部				
科目	27年度決算額	27年度予算額	増減	摘要
繰越金	15,631,524	15,631,524	0	
入会金	2,882,000	2,899,000	△17,000	10,000円×284名 3,000円×14名
寄付及び総会費	4,284,310	4,500,000	△215,690	維持費・総会費
雑収入	61,542	5,000	56,542	預金利息等
合 計	22,859,376	23,035,524	△176,148	
支出の部				
科目	27年度決算額	27年度予算額	増減	摘要
会議費	1,099,622	1,000,000	99,622	本部役員会、役員総会、委員会
事務費	3,158,633	3,300,000	△141,367	
事務局費	415,650	500,000	△84,350	
印刷費	140,000	150,000	△10,000	本部役員会・中京・浜松地区会
刷印費	1,062,908	1,050,000	12,908	会報送付用封筒・重曹コピー用紙
通信費	1,469,764	1,500,000	△30,236	会報送付費用・住居費・切手
通用品	56,408	50,000	6,408	フリカ・カト・ワグ・掃除機
消耗品	13,903	50,000	△36,097	テラスカト等
事業費	3,325,870	3,050,000	275,870	
記念品	505,340	500,000	5,340	卒業生記念品・入会記念品
支部活動助成費	117,268	150,000	△32,732	静岡・中京・浜松
慶弔費	51,630	50,000	1,630	祝電・弔電・香典・生花
会館補助費	100,000	100,000	0	千南原会館維持費補助
会館整備費	1,314,480	1,000,000	314,480	同窓会館取替・清掃代
会保費	54,350	50,000	4,350	同窓会館火災保険料
渉外費	136,244	150,000	△13,756	各関係の団体等への 祝儀・会報出版者謝礼
特別会計補助金	1,000,000	1,000,000	0	
雑費	46,558	50,000	△3,442	卒業アルム代・資金庫等
予備費	0	15,685,524	△15,685,524	
次年度繰越	15,275,251	0	15,275,251	
合 計	22,859,376	23,035,524	△176,148	